

令和3年度 吹田市地域自立支援協議会 第2回全体会議

―・―当事者会報告―・―

本年度活動内容

1、定例会議（○開催・×中止・◇オンライン会議）

4月○総福 5月× 6月× 7月◇オンライン 8月× 9月◇オンライン 10月○総福
11月○市役所 12月○総福 1月○総福 2月○総福

2、2021年9月1日 出前講座（メイシアター3F会議室にて）

3、吹田市地域自立支援協議会運営マニュアル作成協力

4、事例集作成（障がい福祉室発行確認済・全体会議承認必要）

―・―活動報告―・―

定例会議

本年度の、定例会議はコロナ感染のため満足のいく会議ができませんでしたが、会議を延ばしては課題を残したままになるので、事務局にZoomを使用したオンライン会議を2度設定してもらい感染問題の中でも会議中止という結果を最小限に抑えるとともに、慣れないオンライン会議ではありましたが障がいの違う委員が集まっても、配慮さえあればオンラインでの開催ができるという自信ができました。

出前講座

出前講座では9月1日に元気な吹田をつくる会からの依頼を受け大学からのインターンシップ生へ向けての講座を吹田メイシアター会議室にて開催することができました。この出前講座もこれで5回目の開催となり発言者となる当事者も当事者会の全員が自らの経験や伝えたいことなどを発信しています。アンケートからの内容でもわかるように当事者が伝えることによってはじめて気づくこと気づかされること、驚かされたことなど、少しでも障がい・障がい者への理解を持たれることによって配慮への答えの導きができたと実感しています。（第1回2020年8月27日、第2回2020年9月13日、第3回2021年3月30日、第4回2021年9月1日）

吹田市地域自立支援協議会運営マニュアル

6月に予定されていた令和3年度第1回吹田市地域自立支援協議会全体会が書面開催となったため、身体障がい者の委員として意見を提出させていただきました。

中でも本年度からは専門部会ではなく当事者会として協議会の中でも独立した会としてのスタートとなりましたので「吹田市地域自立支援協議会設置要領」の改正もされました。専門部会当時から当事者部会の役割が明確化されていなかったため、自立支援協議会の中で、今後の当事者会の在り方や運営についてどのような役割で活動していくのかを明確にしていく為、協議の参加等を事務局と協議し、吹田市地域自立支援協議会運営マニュアルの作成にも意見交換をしてきました。

事例集

次年度からは、当事者委員が公募による新たな構成となるため、現メンバーでの集大成と今後への障がい・障がい者理解、啓蒙・啓発へつなげるための事例集を6月定例会議から作成の取り組みを行いました。これは一つの地域活動としてや行政が行う研修や会議、各センターへの配布、窓口での案内資料やホームページ公開等、数々の場で配布できる資料として当事者会は自負しています。

またこの事例集は今回限りではなく、内容も第2弾版第3版とバージョンアップして地域会議をはじめ地域活動や社協や民生福祉活動の場へ届く、地域福祉での障がい者理解促進の当事者発信ツールとして活かされるよう作成をしてきました。

本年度の当事者会からの活動報告は以上となります。

これらを踏まえ課題と提案を上げさせていただきます。

課題

これまで、専門部会としておかれていた当事者部会が当事者会という独立した組織として参画することになりました。

しかし、本年度は地域会議そのものが運営できていなかったため参画ができなかったことは仕方ないかもしれませんが、組織体制づくりから活動されていた専門部会への参画ができなかったことは残念でした。

これらの組織体制の中、次年度からは当事者会委員は公募委員となります。役割や参画を考えると地域で安心した暮らしを明確化するため大きな役割を持つ事になります。

事務局との連携を強化（密にして当事者会がベクトルを合わせ、地域での課題抽出、解決等につなげていけるようにしていかなければと感じます。

具体課題としては9月の出前講座での、受講者のアンケートから、当事者からの話をリアルに聞けて障害者にとっての問題がわかった。

生きやすい世の中とは何かを感じさせられる話として、どんなことがサポートできるか考えさせられた。

自分たちが何か出来ないかと理解させられた。

コロナ禍におかれた障がい者への

聴覚障害者にとって皆がマスクをすることによって口を隠すため、喋っていることが見えない。

視覚障害者にとっては触れない。展示物を触ることを拒否される。

身体障害者にとっては消毒液が出せない、使えないなど、様々な障害がわかりました。

知的障害者にとってはマスクが付けられないことによって、屋外に出られないなど様々な障害がみられました。

改修されたばかりのメイシアターにもバリアがあることが分かった。

など、この出前講座ででた内容だけでも当事者と地域社会との理解がまだまだ足りないことがわかります。

提案

障がい者（児）が、自立した日常生活又は社会生活を安心して営むことができる地域社会の実現に向けて、将来に不安を感じる当事者にとっての支援体制等を構築するため、

障がい部門での社協との支援ネットワーク体制の構築を強化し、地域資源としてのフル活用として当事者会との学校でのバリアフリー授業や出前講座などの共同開催。

民生委員や地区福祉委員との自治会単位での出前講座開催。地域イベントへの参加や交流会。

ピアサポーター育成や、ピアカウンセラーの相談支援センターへの配置。

これまでの委員への積極的な地域参加や地域会議への参加呼びかけ。

地域で安心して暮らせるよう住居環境の整備。

などの必要性があると感じます。

最後に

当初、予定していた年間計画からは社協や民生との繋がりをつけられなかったのが残念な結果となりました。

地域性の課題（学校・就労・住居など）、議会や審議会傍聴への希望案内や「福祉のてびき」など情報提供の課題など、（HPと市報での内容相違・不足）まだまだ障がい者が地域で当たり前で暮らしていくためには問題が山積されています。これらをどのように取り組んでいくのか、吹田市地域自立支援協議会として来年度からどのように協議されていくのかを当事者会参画のもと協議をしてもらえますよう、障害があってもなくても子供から高齢者まで誰しものが楽しんで暮らしていける街となるように先駆的な取り組みが協議会の中から提案されることを願います。